

はじめに

平素より地域の感染症対策にご協力いただきありがとうございます。
医療機関向け情報には (医) を、**一般施設向け情報には** (一) をつけています。
 ご覧いただく際に参考にしていただければ幸いです。
 原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。
 全数報告：第17週～第18週（4月22日～5月5日） 定点報告：第14週～第18週（4月1日～5月5日）

全数報告疾患情報

(医)

—— 市川保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています

二類感染症	17~18週	累計（年）
結核	1	32

五類感染症	17~18週	累計（年）
百日咳	1	1
梅毒	2	16
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	2
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5

※定点報告疾患については、第14週～第18週のグラフを別添しております

発生動向トピックス

(医)

(一)

Topics 1

RSウイルス感染症が急増しています

市川保健所管内において、RSウイルス感染症の定点当たり報告数が急増しています。第14週～第18週の定点当たり報告数は（図1）のとおり、増減を繰り返しながら増加傾向です。また、全国的に見ても同様の傾向です。全国の第15週の定点当たり報告数**2019年以降、最も高い水準**となりました（図2）。

RSウイルス感染症においては、ハイリスク者（乳幼児や基礎疾患がある高齢者等）が感染することで重症化する可能性があります。

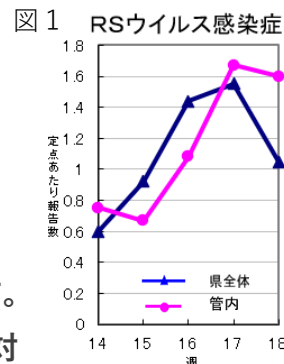
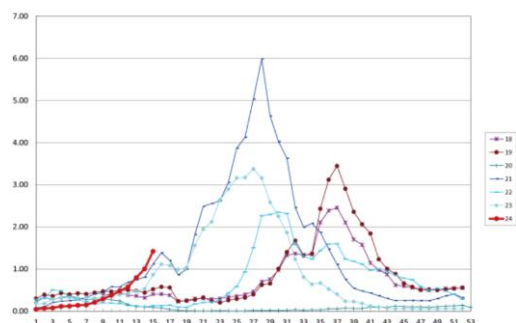


図2 RSV Infection cases reported per sentinel weekly [定点当たり報告数]



感染を防ぐために、飛沫感染対策や接触感染対策を実施することが重要です。

また、重症化リスクの高い乳幼児を対象としたモノクローナル抗体製剤（シナジス）や、高齢者を対象としたワクチンがあります。

その他、発売時期は未定ですが、新たなモノクローナル抗体製剤や妊婦・高齢者を対象としたワクチンが承認されています。

RSウイルス感染症

症状	4~6日		以降	
	潜伏期間			
	軽い風邪症状、肺炎等さまざまな症状を発症 多くは軽症で自然軽快する 初めて感染した乳幼児の約3割は、咳の悪化や喘鳴、呼吸困難等が出現する			
感染経路	飛沫感染	:	咳やくしゃみ・会話などで出たしぶきを吸い込むことで感染	
	接触感染	:	触れた物品や直接の接触で感染	
予防方法	飛沫感染対策	:	症状がある場合は咳エチケットを心がける	
	接触感染対策	:	玩具や手すり等（よく触れる物や場所）はこまめにアルコール製剤や塩素系消毒剤で消毒する、流水・石けんによる手洗い及びアルコール製剤による手指消毒を行う	

【参考】国立感染症研究所：IDWR2024年第15号<注目すべき感染症>RSウイルス感染症
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/12658-idwrc-2415.html>
 【参考】国立感染症研究所：過去10年間との比較グラフ（週報）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/2096-weeklygraph/1661-21rsv.html>
 【参考】国立感染症研究所：IDWR感染症週報2024年第15週（第15号）
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2024/idwr2024-15.pdf>
 【参考】厚生労働省：RSウイルス感染症Q&A（令和6年1月15日改訂）
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_ga.html
 【参考】東京都感染症情報センター：RSウイルス感染症 Respiratory syncytial virus infection
<https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/rs-virus/>

Topics 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています

全国・千葉県ともに、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者数の報告が増加しており、過去同時期と比較しても高い水準で推移しています（図1）（図2）。特に、山形県では警報レベルの基準値となる「8」を超えている状況です。千葉県では、令和5年12月20日に警報基準値を超えたとして報道発表されました。

図1 過去10年間との比較（全国）

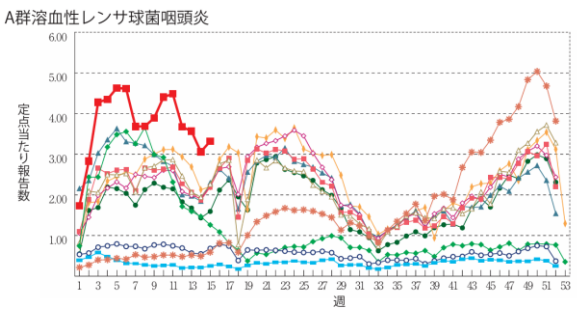
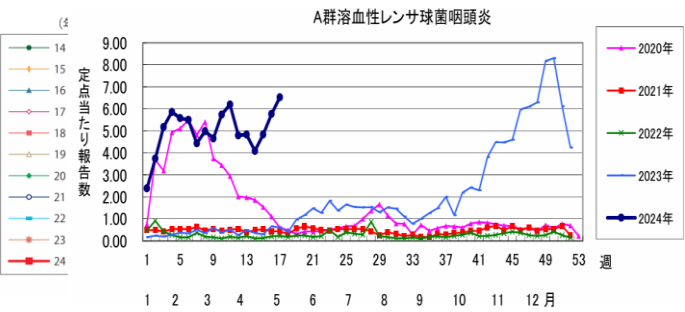


図2 過去5年間との比較（千葉県）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、レンサ球菌感染症の一種であり上気道の感染症です。溶連菌感染症とも呼ばれています。感染すると、発熱やのどの痛み、莓状の舌といった症状が出現します。どの年齢でも感染は起こりますが、特に学童期の小児に多い傾向です。多くの場合、症状は1週間以内に改善しますが、合併症が生じる場合もあるため、咽頭痛等、気になる症状があれば早めに医療機関を受診しましょう。

感染経路としては、患者の咳やくしゃみ等のしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛沫感染があります。また、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染もあります。流行期は、例年「春から初夏」及び「冬」とされています。

A群溶血性レンサ球菌
咽頭炎

症状	2~5日	以降	
	潜伏期間	38℃以上の発熱や咽頭発赤、莓状の舌等の症状 しばしば嘔吐を伴う 重症化することもあり、劇症型溶血性レンサ球菌 感染症（STSS）等を引き起こすことがある	
	感染経路	飛沫感染 : しぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染 接触感染 : 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染	
予防方法	飛沫感染対策 : 症状がある場合は、咳エチケットを心がける 接触感染対策 : 石けんによる手洗い及び アルコール消毒剤による 手指消毒を行う		

学校保健安全法
「適正な
抗菌剤治療開始後
24時間を経て
全身状態が良ければ
登校可能」
とされています
第三種学校感染症

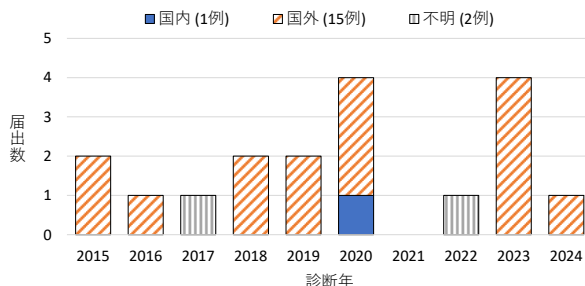
【参考】国立感染症研究所：IDWR2024年第15号
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2024/idwr2024-15.pdf>
 【参考】千葉県感染症情報センター：千葉県結核・感染症週報2024年第17週
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/wr2417.pdf>
 【参考】千葉県：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について
 (令和5年12月20日)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2023/agunyourenkin.html>
 【参考】東京都：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）について
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/yorenkin.html>
 【参考】NHK：「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の患者数例年よりも多く
 (2024年5月2日6時15分)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240502/k10014438261000.html>

Topics 3 腸チフスの届出がありました、海外旅行後の発症に注意

2024年第17週に千葉県内医療機関から本年初となる腸チフスの届出がありました。2015年から2024年第17週までに千葉県内医療機関から届出のあった腸チフス症例は合計18例でした（図）。2015年以降届出があった18例について、推定される感染地域の多くは国外であり、南アジアや東南アジア地域でアジアでの感染が多い状況です。

感染対策として、生水や氷、生肉、生野菜、カットフルーツなどには注意し、十分に加熱された飲食物を食べること、こまめな手洗いを心がけましょう。

図：2015年～2024年第17週の県内の腸チフス症例の推定感染地域別届出数、18例



腸チフス

症状	7~14日	第1病期	第2病期	第3病期	第4病期	
	潜伏期間	体温上昇 腸チフス3 主徴が出現	40℃台の熱 下痢、便秘 意識障害	徐々に解熱	解熱、回復	
	感染経路	感染したヒトの排泄物に汚染された水、氷、食べ物を摂取することで感染する（ごく少量で感染することも）				
	予防方法	①食べ物に注意（十分加熱、水は沸騰させる など） ②手洗いを徹底する（食事の前には手洗いをする など）				
リスクのある地域	南アジア、東南アジア、アフリカ、カリブ海、中央・南アメリカ					

【参考】千葉県結核・感染症週報：2024年第17週
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/wr2417.pdf>

【参考】国立感染症研究所：腸チフス・パラチフスとは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/440-typhi-intro.html>

【参考】FORTH：腸チフス、パラチフス (Typhoid Fever, Paratyphoid Fever)
<https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/name11.html>

インフルエンザ感染症

医

- インフルエンザ警報が解除されました！
- 定点医療機関における感染者数の報告は減少傾向です

令和6年第14週（4月1日～4月7日）に、インフルエンザ警報を継続するための基準値（10）を下回り、その後も3週連続で千葉県内定点当たり報告数が減少したことが確認されたことから、令和5年12月13日に発令されたインフルエンザ警報が、令和6年4月24日をもって解除されました。

今シーズン（2023/2024シーズン）のインフルエンザ警報は計18週間の発令となり、前回警報を発令した2018/2019シーズンと比較し、6週間長い警報発令となりました。

警報・注意報の基準値（定点当たり報告数）

警報		注意報
開始基準値	継続基準値	基準値
30	10	10

【参考】千葉県インフルエンザ警報の解除について（令和6年4月24日）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influ-keihou-kaijyo.html>

【参考】国立感染症研究所：<https://kansen-levelmap.mhlw.go.jp/Hasseidoko/Levelmap/flu/guide.html>

市川保健所管内インフルエンザ発生状況（人）

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	3	13	0	0	0

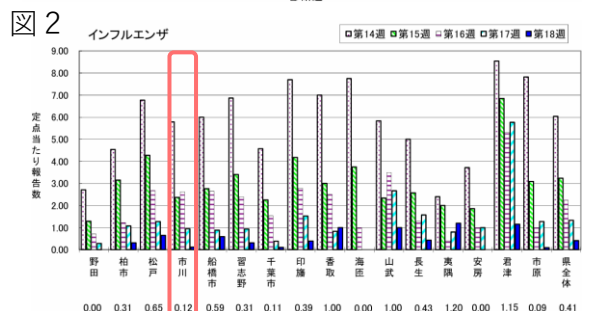
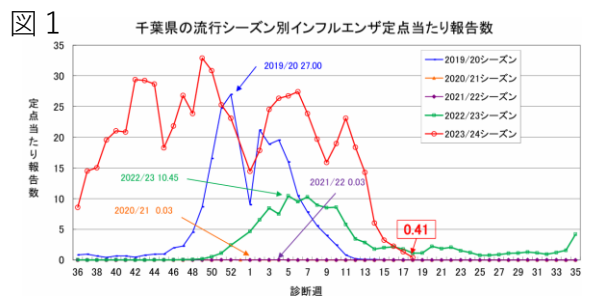
※型非鑑別キット

（医療機関からの型報告なく不明な4例を除く）

第18週の千葉県全体の定点当たり報告数は、0.41（人）と減少しました（図1）。報告数が多かった地域は、夷隅1.20（人）、君津1.15（人）、香取／山武1.00（人）でした。市川保健所管内の報告数は、0.12（人）でした（図2）。

2024年第18週に県内で報告のあった71例のうち、A型26例（36.6%）、B型35例（49.3%）となっており、2024年第5週以降B型が多い状況が続いています。

2024年第17週～第18週における定点各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめた表です



感染
対策

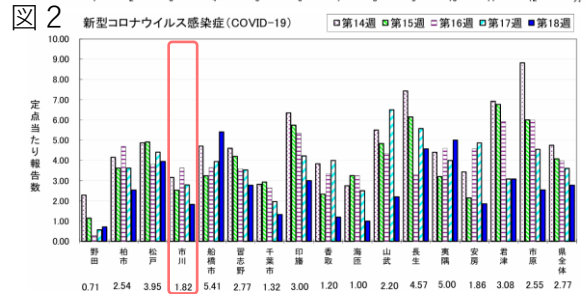
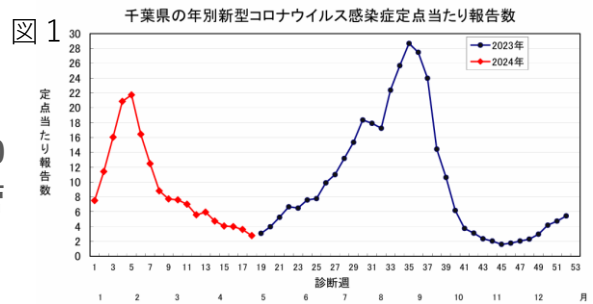
- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気
- ④室内の湿度の保持
- ⑤人込みを避ける
- ⑥ワクチン接種

【参考】千葉県感染症情報センター
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202418influenza.pdf>

【参考】厚労省：インフルエンザQ&A
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/QA2023.html

—— 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です

第18週の千葉県全体の定点当たり報告数は、2.77（人）と減少しました（図1）。報告数が多かった地域は、船橋市5.41（人）、夷隅5.00（人）、長生4.57（人）でした。市川保健所管内の報告数は、前週より減少し、1.82（人）となっています（図2）。



感染
対策

インフルエンザを予防する
方法と同様です

【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202418covid19.pdf>

お知らせ

—— HIV・性感染症・肝炎検査についてのお知らせです

検査実施日 第1・第3木曜日 ※詳細はホームページをご覧ください

検査内容 HIV／梅毒／B型肝炎／C型肝炎／クラミジア／淋菌

**問い合わせ
予約方法** 市川保健所疾病対策課 電話にて要予約
※市川保健所のホームページをご参照ください

【参考】市川保健所：HIV抗体検査・肝炎ウイルス検査のご案内

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kf-ichikawa/kenkousoudan/hiv.html>

【参考】千葉県：千葉県内のエイズ等相談・検査

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>

他保健所の情報も
掲載しております

—— 最後に

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまでご連絡をお願いします
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることをご了承ください
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任においてご利用ください
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします

配信元

千葉縣市川健康福祉センター
(市川保健所)
いちうら感染症情報
ichiurainf@pref.chiba.lg.jp